

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年7月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101219
法人名	R i g h t - H a n d株式会社
事業所名	認知症の人と暮らす家 五福
所在地	鹿児島県鹿児島市宇宿九丁目11番22号 (電話) 099-264-5291
自己評価作成日	令和6年6月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年7月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

五福の理念「長寿、健康、徳、財、天命」をもとに、入居者が五福で、自宅で暮らしていたような普通の暮らしを続けられるよう、キャストが黒子となり、入居者の生活を支援しております。常にこの理念に沿って、季節の行事はもちろん、個人毎の行事・お祝いごと、地域との関わり、全てにおいて、一人ひとりの入居者/ご家族と、今までどのように暮らしていたかを一緒に考え、そしてチームで考え、企画し、実践しております。その中で、関わり方の振り返りはもちろん、認知症ケアの専門施設として、認知症の進捗の対比など、専門的アプローチも行っております。医療とも連携し、早急な対応を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は静かな住宅街の中、庭の木々や果樹で季節を感じたり、収穫を楽しめる環境である。利用者も庭の草取りや果樹の収穫等を一緒に行っている。
- ・地域の清掃や廃品回収に職員と利用者が一緒に参加したり、夏祭りの設営の協力を行う等、地域住民との交流に取り組んでいる。
- ・職員は利用者がこれまでの暮らしを継続できるよう、利用者のペースや持てる力を最大限に活かした支援に取り組んでいる。カフェスペースでの面会や外出等で家族との交流を支援している。事業所からも毎月、近況報告を行って関係が途切れないように努めている。
- ・管理者は、職員が働きやすいよう休憩時間の確保や有給休暇、リフレッシュ休暇取得等の配慮を行っている。IT機器を使用し、職員との意見交換や共有を行い、質の高いケアを実践している。
- ・家族の意向に沿って看取り介護にも取り組み、訪問診療医や訪問看護師と協力してチームでの支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	五福独自の理念を掲げており、理念をチーム全員で共有し、実践している。	理念はカフェに置いているタブレットでいつでも見られるようになっており、重要事項説明書にも掲載している。理念に沿ったケアが実践できているかを職員間で確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域で開催される行事に参加するなど、交流を深めている。日常的には、近隣の店での買い物、美容室の利用などで、地域とのつながりを持つようにしている。	町内会に加入し、地域のリサイクル活動や清掃に利用者と一緒に参加している。夏祭りの設営等に協力し、地域の一員として交流に取り組んでいる。周辺の散歩時は挨拶をして交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方々からの理解や協力を得られるよう、今後は、カフェスペースを開放しての認知症サポーター講座や地域の方々との交流を行いたいと希望している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、五福での取り組みや現状を、写真や作成したDVDを提示しながら報告している。参加者の皆様と意見交換を行いながら、サービスの向上に努めている。(R6年6月11日実施)	2ヶ月毎に同法人の事業所と合同で実施している。DVDを使用して事業所の状況報告を行い、委員との意見交換を行っている。災害対策での助言を受けて垂直避難を計画に入れる等、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議での意見交換や、事故報告、生活保護受給者である入居者への対応など、現況や取り組み内容を積極的に伝え、協力関係を築いている。	市の担当者とは出向いて相談や報告を行ったり、電話等で連携を図っている。生活保護担当者の来訪時の意見交換と合わせて協力関係を築いている。市の介護相談員を受け入れたり、市主催の研修も受講している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、委員会を設置している。施錠は夜間のみ行い、それ以外は行っていない。また、人感センサーを適宜使用している。キャスト全員が拘束しないケアについて理解し、入居者がこれまでもの暮らしの継続が出来るように、取り組んでいる。(R6/4月研修実施)	指針があり、同法人の事業所と合同で委員会を3ヶ月に1回、研修会を年2回実施している。スピーチロックはその場で注意をし、研修にも取り上げている。玄関の施錠はせず、外出希望時は散歩に同行したり、庭に出る場合は声掛けや見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者へのケアについては、BONXやグループウェアを使用し、タイムリーに解決している。虐待防止のために、キャスト同士で話し合い、キャストがストレスを溜めないよう、コミュニケーションをとっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、該当者はいない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は、五福の考え方や取り組みを話した上で、重要事項説明書に基づき丁寧に説明し、理解や共感いただいた上で契約を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族が面会にいらした時や電話にて話をした際に、意見や要望をいただいている。運営推進会議や、毎月のレター発送など、意見や要望を伝えやすい環境づくりを心がけている。</p>	<p>利用者の要望をその都度確認しながらケアを行っている。家族からは電話や面会時に要望を聞き、個々に判断して対応に努めている。毎月写真入りの便りを家族に送付し、意見を聞く機会としている。現在は外食や外出・外泊の要望にも応じている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>キャストが相談しやすいよう、対面での相談、グループウェアやメールを利用したコミュニケーションの機会を設けている。また、定期的に面談を実施し、そこでの意見を運営に反映するよう努めている。</p>	<p>グループウェアやメールを使用して意見を聞いたり、ケアについて職員間で検討している。備品購入は法人に企画書を提出して対応している。管理者は定期的に面談や必要時の個別面談を行っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>定期的に面談を行い、個々人の状況の把握と反映に努めている。また、様々な資格に対し、手当として反映させ、向上心の維持に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>カンファレンス時に勉強会を行ったり、積極的に外部の研修に参加している。また、研修後には報告書を作成し、全キャストが閲覧することで、情報を共有できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所より、見学希望が少しずつ増えてきている。現在は、オンラインを利用して県外の他施設との交流を行ったり、各種研修会でネットワークづくりをし、サービスの質向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関する相談があった際には、ご本人と面会して話をお聞きし、本人の嗜好や歴史の把握に努めている。入居されてからは、心身の状態や現在の想いを話していただけるような声かけや雰囲気を作り、本人の想いを受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談・見学のため訪問された際、ご家族の想いや状況、不安などに耳を傾けるようにしている。また、カフェスペースを利用し、リラックスした状況でお話しを伺うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・見学のため訪問された際、ご家族の想いや状況、不安などに耳を傾けるようにしている。また、カフェスペースを利用し、リラックスした状況でお話しを伺うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、入居者を中心と相談しながら、物事をすすめるように心掛けている。(料理の方法や行事の風習など)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診やお出かけの際には出来るだけご家族に支援して頂いている。誕生日、地域の行事など、まずは入居者がどうご家族と過ごされていたかを確認し、その後の継続を普通の暮らしとして提案支援している。その後参加の呼びかけをおこなっている。また、入居者の状態や気がかりなことなどは直ぐにご家族と連絡をとるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に入居者やご家族に入居前シートに生活歴や環境などを事前に聞き取り記録を行っている。また、ご家族や知人などの面会時の対話からも把握に努めて支援している。ご家族や知人の面会時はカフェスペースでプライベートな空間で過ごせるように配慮をしている。電話や、手紙の取次なども支援している。	カフェスペースで時間を決めて家族や友人・知人と対面での面会を行っている。毎月、事業所から家族へ近況報告の手紙を送付して関係が途切れないように努めている。外出等の支援や電話・はがき・手紙等の取次ぎも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者やキャスト、ご家族が皆で過ごす時間を大切にしている。出来るだけ入居者同士で声掛けして関わり合い孤立しないように支え合っているように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされる入居者、ご家族に対して継続的に関わりを持って相談など快く応じ支援をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思決定が難しい方が多くなる中で、入居者の表情や行動を通じて、希望や意向の把握に努めている。	本人の表情を見ながらタイミングを見て話しかけ、思いを引き出せるよう働きかけている。困難時は、家族に聞いたり入所前の情報等により把握している。得られた情報は職員間で共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前に面会し、ご本人やご家族にこれまでの生活歴をお聞きし入居前シートに記憶をたどり書いていただく。サービス利用の経過をご本人やご家族、サービス事業者などから情報を得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや、経過記録をもとに1人ひとりの生活リズムを把握理解するように努めキャスト間で常に情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの意向や希望を聞き取り、主治医や看護からの情報を始め、カンファレンスの結果など利用者の変化の都度介護計画を都度作成している。	本人や家族の希望を聞き、ケアマネジャーや職員で担当者会議を実施し、情報共有ツールにての職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月毎に実施し、6ヶ月毎及び状況変化等の必要時に見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子やケアの実践は軽か記録に残し、キャスト間で情報を共有しながら、その都度ミニカンファレンスを行い介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	キャストもその時々起きるニーズに対して応えられる様に、人員配置や勤務日、時間の変更をしたり、柔軟かつ即座に対応できるように支援やサービスに繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会への加入参加、医療機関との連携を保ち、直ぐに相談でき入居者様が安全に健康に暮らせるように支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ご本人及びご家族等の希望を大切に基本とし、利用前の受診の経過を把握して、ご本人ご家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。受診はご家族付き添いが基本だが、必要に応じて五福で支援している。医師、ご家族との情報交換は十分に行っている。受診の結果はキャストが常に把握できるように申送りを通じて共有している。	契約時に確認し、本人や家族の希望するかかりつけ医である。受診は家族対応が基本で、状況により事業所対応を行っている。週1回の訪問看護師の健康チェックや歯科の往診を実施し、夜間や緊急時はかかりつけ医の指示を受けて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週1回、看護師が来て入居者の情報ををお伝えし、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院中、退院前も医療機関関係者と情報交換を常に行い、退院後のケアの相談、今後の対応について密に情報を提供して頂き役立てている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居契約時に、重度化や終末期に向けた方針をご家族にご説明をおこなっている。終末期の入居者様について看取りケアを行い、ご家族が不安に思っていることを聞く場を設けて医療機関との連携が取れる様に関係者と共にチームで取り組んでいる。	入所契約時に重度化等の対応について指針で説明し、同意書をもっている。重度化の場合は医師から家族に病状を説明、意向を確認し支援に取り組んでいる。訪問診療や訪問看護師と連携して看取り介護も行っており、看取りの事例がある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	緊急時対応シートを作成している。避難訓練時に応急処置の方法、AED取り扱いについて研修を定期的に関催実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、運営推進会議時を利用して消防署、地区消防団と共に、町内会長、民生委員さんも参加して定期的に夜間も想定した避難訓練、通報訓練を実施している。消防職によるAEDの使い方講習カンファレンス時には、救急対応の研修も実施しキャスト全員が対処法を身につけている。</p>	<p>年2回昼夜想定での避難訓練を実施し、1回は消防署の立ち合いを受けている。地区消防団や町内会長・民生委員の参加があり、地域との協力体制を築いている。今後、地震想定での訓練も実施予定である。3日分の水・米・缶詰・カップ麺等の食料の備蓄とガスコンロや太陽光の非常用発電機を準備している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人に関する事は、他の入居者が居ない所で行っている。トイレ、お風呂、居室入室等プライバシーに配慮し、その人にふさわしい声掛けをできるように気を付けている。(声量、トーン、内容)	研修を実施し、人格を損ねない言葉かけに注意している。排泄・入浴介助時は羞恥心に配慮した対応を行い、入浴は同性介助を基本にしている。本人の気持ちを大切に、個々に応じた声かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や散歩などはできるだけ入居者の希望に沿って行動できるようにしているが、職員の勤務状況により困難な場合がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴なども時間や日にちを特別に設けることはせず、皆様のご希望のお時間で暮らしをしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	お洋服や身だしなみ用品(お化粧品等)も、その方の馴染みの物や、好みの物を使用されている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みもお聴きしながら、料理の手順を踏まえ、基本入居者がお料理する。見守りや必要に応じて、職員も一緒に行っている。	利用者の希望を聞き献立を決めている。調理は利用者の力量に応じて一緒に行っている。誕生日や行事食・手作りおやつ・そば打ち・餅つき等、食事を楽しんでもらえる工夫をしている。保存食等も手作りしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事・水分量を記録し、キャスト間で情報共有している。個々の食事量・嚥下・咀嚼状態に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれの状態に応じて口腔ケアを行っている。基本、ご本人で口腔ケアを行うが、必要に応じて支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時の不安やプライバシーに配慮した声掛けやフォローで自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツや尿取りパット着用であっても、排泄記録等を利用して排泄サイクルに合わせたトイレ誘導を行っている。	日中は、個々の排泄パターンに応じた声かけ誘導を行い、トイレでの排泄を基本に支援している。座位が可能であれば2人介助で支援している。布パンツ使用を維持している利用者や夜間のみパット使用の利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりに排泄記録を付けており、状態確認をして看護師や病院へ相談をして対策をしている。個々の状態に合わせて、服薬や水分補給を増やす等行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は、曜日や時間帯を定めず、ご本人様が入りたい時には入浴できるようにしている。最低でも、週に2～3回は入浴をしていただいている。	週2～3回本人の希望の日時で入浴を支援している。身体状況等の必要に応じて、2人介助や同性介助・清拭・シャワー浴を行い、個人用のシャンプーやゆず湯で楽しんでいる。拒否の場合は、日時を変えたり声かけを工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を定めず、ご本人の休みたい時に休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにてそれぞれの薬情を管理し、薬への変更や注意点が合った場合には必ず申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの以前の暮らしや習慣を把握し、可能な限りご本人の生活を大切にしている。洗濯・料理・炊事等も得意分野で役割を担って頂き、たくさんの方がチャレンジできるように声かけや環境づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の希望により、外出やお買い物に出る機会を設けている。ご本人の馴染みの場所や行事・イベント参加についてもお聴きし、ご家族のご協力をいただきながら外出する企画も行っている。	年間計画を立てて、初詣や花見・イルミネーション見物に出かけたり、その日の希望でドライブに行くこともある。家族と外食や美容院利用などで外出する利用者もいる。日常的に天候の良い日は近隣の散歩を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理方法についても、ご本人・ご家族の意見をお聴きしている。お買い物に出た際は、ご自分のお財布を持ち、お支払いまでして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	毎年の年賀状や季節の行事のお葉書も作成し、手書きのメッセージや日常生活のお写真も写真へおさめている。電話をかけたい時に、すぐに対応できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先やリビングへお庭の草花を摘んで飾ったり、各窓から見える木々や観葉植物でも季節感を感じる事が出来ている。生活に支障のある大きな音や話し声がないよう、キャスト同士はBOMX（ハンズフリーイヤホン）を駆使してケアを行っている。	リビングはエアコンとサーキュレーターで室内環境が調整され、空気清浄機や窓の開閉で換気を行っている。リビングやバルコニーから見える畑や庭の木々と果樹、事業所内に飾っている花等で季節を感じられる。利用者がリビングやカフェ・畳スペース等の好みの場所でくつろげるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>お好きな時間に仲の良い入居者とお茶をして談笑したりお一人でのんびり過ごしたりできるように、カフェやリビング、畳スペースなどをご自由に使う事ができるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人、ご家族へこれまでの暮らしをお聴きし、これまで使用されていた家具や物、馴染みのものを使用されている。家具の配置等もご本人、ご家族の意向により設置していただいている。</p>	<p>ベッド・エアコンが設置されている。使い慣れた寝具やテレビ・仏壇・タンス・ソファ等の家具や本・写真・時計等の身の回りの品を持ち込み、馴染みのものに囲まれて居心地よく過ごしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内のエレベーターや内階段の設置により、その人の状況に応じて1・2階それぞれのユニットを行き来できる。各廊下や階段にも手の届く低めの高さの手すりが設置されている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない